

令和2年司法試験予備試験口述試験の結果（最終合格発表）を受けて

1 令和2年司法試験予備試験口述試験の結果（最終合格発表）

令和3年2月8日、法務省大臣官房人事課より、令和2年司法試験予備試験口述試験の結果が発表されました。

(1) 口述試験受験者数，合格者数，合格点

口述試験受験者数 464 人（令和元年は 494 人，平成 30 年は 456 人）

合格者数 442 人（令和元年は 476 人，平成 30 年は 433 人）

合格点 119 点以上（令和元年・平成 30 年ともに 119 点以上）

となりました。

この結果から、司法試験予備試験（以下、「予備試験」）の口述試験においては、約 4.7% 程度（22 人）が不合格となってしまうことがわかります。

なお、予備試験の受験者数と論文合格者、及び最終合格者の推移（直近 5 年分）については、以下のとおりです。

令和2年 受験者数 10,608 人，論文合格者 464 人，最終合格者 442 人

令和元年 受験者数 11,780 人，論文合格者 494 人，最終合格者 476 人

平成 30 年 受験者数 11,136 人，論文合格者 459 人，最終合格者 433 人

平成 29 年 受験者数 10,743 人，論文合格者 469 人，最終合格者 444 人

平成 28 年 受験者数 10,442 人，論文合格者 429 人，最終合格者 405 人

(2) 合格者の年齢（本年1月31日現在）

合格者の年齢は、

最低年齢 18 歳（令和元年は 19 歳，平成 30 年は 19 歳）

最高年齢 59 歳（令和元年は 63 歳，平成 30 年は 64 歳）

平均年齢 25.89 歳（令和元年は 26.03 歳，平成 30 年は 27.43 歳）

となりました。

合格者の最低年齢 18 歳は、平成 29 年以来となります。

(3) 最終学歴別

最終合格者の最終学歴は、

大学卒業 57 人（令和元年は 60 人，平成 30 年は 51 人）

大学在学中 242 人（令和元年は 251 人，平成 30 年は 170 人）

法科大学院在学中 97 人（令和元年は 116 人，平成 30 年は 152 人）

法科大学院修了 21 人（令和元年は 32 人，平成 30 年は 47 人）

となりました。

2 予備試験の口述試験に合格するためには

予備試験の口述試験の受験者は、難関とされる短答式試験及び論文式試験の双方と

も合格しています。そのため、受験者の全体のレベルは非常に高いといえますが、その中にあっても、口述試験に合格できない受験者は、約3～5%程度存在しています。

このことから、口述試験は、口述試験特有の対策を怠らなければほぼ確実に合格することができる試験である一方、口述試験特有の対策を講じずに漫然と受験すれば、たとえ学力が十分であっても不合格となるリスクが相当程度存在する試験だといえます。

口述試験においても、出題された問題に対して解答するという形式に変わりはありません。最も重要なポイントは、面接官（主査）と直接コミュニケーションを取りながら口頭で解答するという点です。

口述試験では、短答式試験や論文式試験にはない独特の緊張感が受験者のメンタルに直接作用します。そのため、うまくコミュニケーションを取れず、実力を発揮できないまま試験が終わってしまうという事態が起こり得ます（書面上であれば容易に解答できる内容であるにもかかわらず）。

そこで、口述試験を突破して最終合格を勝ち取るために最も効果的な対策は、実戦形式の対策、すなわち「口述模試」です。これを受けることで、実際の現場でも過度に緊張することなく、実力を発揮することが可能となるでしょう。

3 これから予備試験の最終合格を目指す方へ

最終合格者のうち、最も高い割合を占めている受験者は「大学在学中」の者です（442人中、242人）。このことから分かる通り、予備試験は、予備校の入門講座等を活用して効率的な勉強を行うことによって、大学在学中でも最終合格することが十分可能な試験です。また、司法試験の受験資格を一度喪失してしまったけれども、予備試験に合格して再度司法試験にチャレンジする方も大勢いらっしゃいます。

予備試験に最終合格し、司法試験にも最終合格して法曹を目指すために最も重要なことの1つは、「できるだけ早い段階で効率的な学習を積み重ねること」です。

皆様が司法試験及び予備試験に合格なさることを心から祈念致します。

以 上